

体育会強化指定クラブ所属学生の学習意欲に関する研究

—東海大学熊本校舎経営学科学生を対象として—

田中靖久*

Research on the motivation to learn of students belonging to the Reinforcement Sports Club
—For students of Tokai University, Kumamoto Campus, Department of Business Administration—

by
Yasuhisa TANAKA

(Received: October 31, 2023, Accepted: January 23, 2024)

Abstract

This study was conducted to investigate "Reasons for Entering College" and "Willingness to Learn" in the Department of Business Administration, Tokai University, in order to clarify the "state of low motivation to learn" shown by the students of the Reinforced Sports Club, based on the following three hypotheses. As a result, the following findings were obtained.

1. Although there is a difference in the motivation to learn between the general students and the students in the clubs, it cannot be said that all the motivation to learn is lower in the club students than in the general students.

2. Although the students in the clubs tend to follow the rules, they have different reasons and purposes for attending university than the general students, so their interest in the classes and their willingness to learn and study by themselves are lower than the general students.

3. As seen in the previous study, there is a difference in the willingness to study depending on the grade, with sophomores being less willing to study than freshmen.

Key Words : Student apathy, Eagerness to learn, Reason for attending university

1. 目的

「Student apathy(以下、スチューデントアパシー)」については、古くから指摘されている問題であり、これまでにWalters (1961) が提唱して以来、様々な研究がなされている。この「スチューデントアパシー」というのは、「学校に行きたくない」、「勉強したくない」、「やる気が出ない」等の無気力状態を意味している。Waltersによると、スチューデントアパシーは大学2年生の頃に最も起こりやすいと指摘している。

ここ数年、本学経営学部経営学科の講義においても無気力な学生、学習意欲の低い行動(居眠り、携帯電話の使用等)をとる学生が多く見受けられ、学習に対して無気力状態の学生が増加傾向にあると、執筆者は感じる。原因として、①基礎学力レベルの低い学生の入学(大学全入時代)、②進学理由・目的の違い(目的意識低下)③新しい環境での生活習慣の乱れ(自由度の高い生活)、等が挙げられる。また、本学経営学科入学学生の場合、「②進学理由・目的の違い」の背景として、体育

会強化指定クラブに所属している学生(以下、強化クラブ学生)が約30%在籍していることにあると考えられる。強化クラブ学生の中には、大学に入学する目的の優先順位として、本学経営学科での学びよりも、クラブ活動での活躍を優先にしている学生も存在する。その為か、本学科科目担当教員から強化クラブ学生の無気力状態、特に学習意欲低下を指摘する声を耳にする。しかし、それらを証明する根拠はない。またそれを裏付ける研究報告も見当たらない。

そこで本研究は、本学経営学部経営学科学生の「進学理由」と「学習意欲」を調査し、強化クラブ学生が示す「学習意欲の状態」を明らかにする為、以下の3つの仮説をもとに検証を行った。

1.1 強化クラブに所属していない学生(以下、一般学生)と強化クラブ学生の学習意欲に違いがあり、強化クラブ学生の学習意欲が一般学生に比べて低い。

1.2 強化クラブ学生は、進学理由が「クラブ活動での活躍」の為、単位取得を重視し授業内容には興味を持っていない。

1.3 学年によって学習意欲に違いがあり、強化クラブ学生は、1年生よりも2年生の学習意欲が低い。

* 文理融合学部経営学科准教授

2. 方法

2.1 調査概要 (表1)

本学経営学部経営学科1,2年生301名を分析対象とし、質問紙による集合調査法で実施した(2015年度7月春学期終了時)。アンケート内容は、(1)所属に関する質問(2)大学への進学理由に関する設問(3)学習意欲に関する設問である。なお、アンケート調査の実施にあたっては、趣旨及び個人情報保護について説明を行うとともに、データの使用については同意を得られた者のみを分析対象とした。同意を得られなかった者及び回答に不備のあった者を除き、174名について解析を行った。

表1.. 所属・学年別回答数

所属	1年生	2年生	合計
強化クラブ学生	46	39	85
一般学生	44	45	89
合計	90 (162名)	84 (139名)	174 (301名)

() 内は、対象学生数

2.1.1 体育会強化指定クラブ (強化クラブ)

強化クラブとは、東海大学九州キャンパスが強化指定する体育会クラブのことを指す。現在、強化指定クラブは、男子硬式野球部、男子サッカー部、男・女バスケットボール部、男・女柔道部、男・女器械体操部、男・女ゴルフ部である。

2.2 調査内容

2.2.1 アンケートの設問

(1)属性に関する質問 ①性別、②学生証番号、③体育会強化クラブ所属の有無、④入試形態

(2)大学への進学理由

設問は、Benesse 教育研究開発センター (2005) で使用された調査項目9項目に加え、「大学でクラブ活動をやりたいから」の設問を追加した。得点の評定は「よくあてはまる(4点)、どちらかと言えばあてはまる(3点)、どちらかと言えばあてはまらない(2点)、全くあてはまらない(1点)」の4段階尺度で評価を依頼した。

(3)学習意欲に関するアンケート

① 意欲低下領域尺度 (表2)

下山(1993)の意欲低下領域尺度は、鉄島(1996)のアパシー傾向測定尺度を基に作られ、スチューデント・アパシーの特徴でもある活動内容の違いによって選択的退却が生じる側面を考慮して、意欲低下が生じる場面を大学生の生活領域で分け、領域ごとに意欲低下を測定する尺度を作成している。その下位尺度は、「授業場面における意欲低下(以下:授業意欲低下)」、「学業場面における意欲低下(以下:学業意欲低下)」、「大学生生活場面における意欲低下(以下:大学意欲低下)」の3つに分かれ、各

下位尺度5項目、計15項目で構成される。得点の評定は「よくあてはまる(4点)、どちらかと言えばあてはまる(3点)、どちらかと言えばあてはまらない(2点)、全くあてはまらない(1点)」の4段階尺度で評価を依頼した。合計得点の範囲は全体として15点-60点、各下位尺度としてはともに5点-20点であり、得点が高ければ高いほど、意欲低下が生じていると判断される。

表2. 意欲低下領域尺度

【授業意欲低下】：学生の授業での取り組みにおける意欲低下 5項目	
6.授業に出る気がしない。	
7.朝寝坊などで授業に遅れることが多い。	
8.何となく授業をさぼることがある。	
9.大学からの連絡事項を見落としてしまうことが多い。	
10.授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある。	
【学業意欲低下】：学生の授業を超えた主体的な学修における意欲低下 5項目	
☆1.教師に言われなくても自分から進んで勉強する。	
2.勉強に関する本を読んでいてもすぐに飽きてしまう。	
☆3.勉強で疑問に思ったことはすぐ調べる。	
☆4.必要な単位以外でも、関心のある授業はとるようにしている。	
☆5.大学で勉強をすることで自分の関心を深めている。	
【大学意欲低下】：学生の大学生生活全般における意欲低下 5項目	
11.大学生生活で打ち込むものがない。	
☆12.大学ではいろいろな人と交流がある。	
13.大学にいるより、自分ひとりであるほうがいい。	
☆14.大学での時間は自分の生活の中で有意義な時間である。	
15.大学のなかで自分の居場所がないと感じる。	
注) ☆は逆転項目	下山(1996)

② 学習への取り組みに関する尺度 (表3)

岡田ら(2011)の学習への取り組みに関する尺度は、学生の学習スタイルを知るために、Benesse 教育開発センター(2005)の調査で使用された「学習への取り組み方に

表3. 大学の学習への取り組みに関する尺度

【勤勉的受講態度】7項目	
1.授業に必要な教科書・資料、ノートなどを毎日持参する	
2.履修(登録)した科目は途中で投げ出さない	
3.授業で出された宿題や課題をきちんとする	
4.授業に遅刻しないようにする	
5.レポートやテストを提出する前に見直す	
6.できるかぎりよい成績を取ろうとする	
7.授業で配布された資料などを整理する	
【積極的思考】4項目	
8.グループワークやディスカッションで自分の意見を問う	
9.グループワークやディスカッションでは、進んでまとめ役をする	
10.クラス全員の前で、積極的に質問する	
11.グループワークやディスカッションでは、異なる意見の立場に配慮する	
【自発的学習】3項目	
12.授業で興味を持ったことについて主体的に勉強する	
13.授業とは関係なく、興味を持ったことについて自主的に勉強する	
14.授業でわからなかったことは、自分で調べる	
【計画的学習】2項目	
15.計画を立てて勉強する	
16.自分の意思で継続的に勉強する	

岡田(2011)

関する項目」を基に作成されている。大学、高校それぞれについて回答するように求め、下位尺度と項目数はそれぞれ「勤勉的受講態度7項目」、「積極的主張4項目」、「自発的学習3項目」、「計画的学習2項目」の4つの下位尺度、計16項目で構成されている。得点の評定は「全くあてはまらない(1点)」「どちらかと言えばあてはまらない(2点)」「どちらかと言えばあてはまる(3点)」「とてもあてはまる(4点)」の4段階尺度で評価を依頼した。合計得点の範囲は各下位尺度で異なり、「勤勉的受講態度」7点-28点、「積極的主張」4点-16点、「自発的学習」、3点-12点、「計画的学習」2点-8点であり、意欲低下領域尺度とは逆に、合計得点が高ければ高いほど、意欲が高いと判断される。

3. 結果

3.1 大学進学理由(表4)

強化クラブ学生と一般学生の比較

度数及び評定平均値を表4に示した。強化クラブ学生は、「10. 大学で部活動をやりたいから」が「とても当てはまる」「やや当てはまる」合わせて86%(73名)で、最も多くの者が進学理由として挙げ、一般学生より高い評定平均値を示したが、それ以外の9項目は、一般学生の方が高い値を示した。

また、一般学生は、「4. 大学の学歴がほしい」を「と

ても当てはまる」「やや当てはまる」合わせて88%(78名)で、最も多くの者が進学理由として挙げていた。統計学的に有意な差が見られたのは、「3. 幅広い教養を身につけたいから」「4. 大卒の学歴がほしいから」「7. 自由な時間を得たい」「8. 周囲の人がみな行く」が一般学生の方が有意に高い値を示し、「10. 大学で部活動をやりたいから」は、強化クラブ学生が有意に高い値を示した。

3.2 学習意欲(強化クラブ学生と一般学生の比較)

3.2.1 意欲低下領域尺度

強化クラブ学生と一般学生の比較

3.2.1.1 合計得点及び下位尺度(表5・図1)

合計得点及び下位尺度合計得点の評定平均値、分析結果を表5・図1(合計得点は除く)に示した。なお、逆転項目は得点処理をして分析した。合計得点には統計学的に有意な差は見られなかった。

両群とも、「学業意欲低下尺度」が3尺度の中で最も高い評定平均値を示し、学業場面における意欲が最も低いことが明らかとなった。ついで、「大学意欲低下尺度」、「授業意欲低下尺度」の順で評定平均値が高い結果であった。統計学的に有意な差が見られたのは、「授業意欲低下尺度」

表5. 強化クラブ学生と一般学生の比較(意欲低下尺度 項目)

	強化クラブ学生			一般学生			T値	P値
	Mean	SD	N	Mean	SD	N		
授業意欲低下尺度	8.84	3.32	85	9.92	3.80	89	2.00	0.047
学業意欲低下尺度	13.52	2.82	85	12.76	2.76	89	-1.81	0.077
大学意欲低下尺度	9.72	2.76	85	10.51	2.76	89	1.88	0.062
合計得点	32.07	6.01	85	33.19	7.63	89	1.05	0.290

表4. 強化クラブ学生と一般学生の比較(大学進学理由)

		全く当てはまらない ① ② ③ ④				平均値	標準偏差	T値	P値
		①	②	③	④				
1. 将来の仕事に役立つ勉強がしたい	強化クラブ学生 N=85	5	11	36	33	3.14	± 0.86	0.57	0.568
	一般学生 N=89	3	12	37	37	3.21	± 0.80		
2. 専門的な研究をしたい	強化クラブ学生 N=85	20	32	25	8	2.25	± 0.93	1.12	0.264
	一般学生 N=89	9	44	28	8	2.39	± 0.79		
3. 幅広い教養を身につけたい	強化クラブ学生 N=85	7	24	36	18	2.77	± 0.88	3.28	0.001
	一般学生 N=89	0	15	45	29	3.16	± 0.69		
4. 大学の学歴がほしい	強化クラブ学生 N=85	9	15	28	33	3.00	± 1.00	3.17	0.002
	一般学生 N=89	2	9	27	51	3.43	± 0.77		
5. 資格や免許を取得したい	強化クラブ学生 N=85	8	22	39	16	2.74	± 0.88	1.88	0.061
	一般学生 N=89	4	21	36	28	2.99	± 0.86		
6. すぐに社会に出るのが不安	強化クラブ学生 N=85	20	29	24	12	2.33	± 0.99	2.47	0.015
	一般学生 N=89	10	29	28	22	2.70	± 0.97		
7. 自由な時間を得たい	強化クラブ学生 N=85	26	38	11	10	2.06	± 0.96	4.37	<.0001
	一般学生 N=89	4	36	38	11	2.63	± 0.76		
8. 周囲の人がみな行く	強化クラブ学生 N=85	38	29	13	5	1.82	± 0.90	3.44	0.001
	一般学生 N=89	16	37	32	4	2.27	± 0.81		
9. 先生や家族が勤める	強化クラブ学生 N=85	20	35	18	12	2.259	± 0.98	1.22	0.224
	一般学生 N=89	13	32	37	7	2.427	± 0.84		
10. 大学でクラブ活動をやりたいから	強化クラブ学生 N=85	4	8	20	53	3.44	± 0.85	-14.55	<.0001
	一般学生 N=89	48	33	3	5	1.61	± 0.81		

で、強化クラブ学生より一般学生の方が高い評定平均値を示し、強化クラブ学生に比べ一般学生の方が、授業場

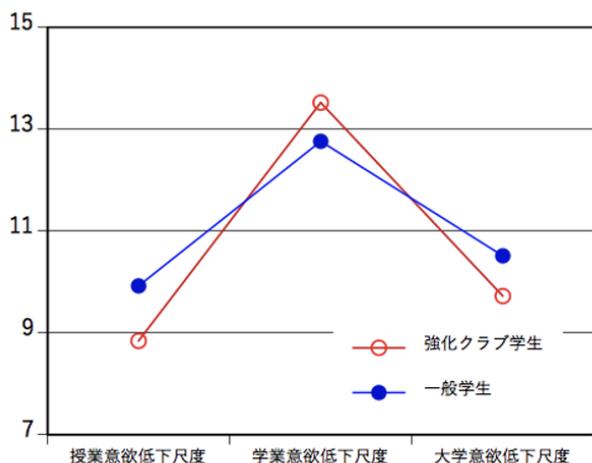


図1. 強化クラブ学生と一般学生の比較 (意欲低下尺度 項目)

面における意欲が低い結果であった。(P<0.05) 残る二つの尺度に有意な差は見られなかった。

3.2.1.2 項目 (表6)

下位尺度の15項目毎に評定平均値の分析結果を表6に示した。なお、逆転項目は得点処理をしないで分析した。強化クラブ学生と一般学生に有意な差が見られたのは、「7. 朝寝坊などで授業に遅れることが多い」(P<0.01)、「8. 何となく授業をさぼることがある」(P<0.05)、「11. 学生生活で打ち込むものがない」(P<0.01)で、一般学生の方が高い評定平均値を示し、この3項目では、一般学生の方が、意欲が低い結果であった。

逆転項目 (意欲が高いと高い評定平均値を示す項目) で統計的に有意な差が見られたのは、「1. 教師に言われなくても自分から進んで勉強する」(P<0.01)、「4. 必要な単位以外でも、関心のある授業はとるようにしている」(P<0.05)、の2項目で、強化クラブ学生の方が低い評定平均値を示し、この2項目では、一般学生に比べ強化ク

表6. 強化クラブ学生と一般学生の比較 (意欲低下尺度 項目)

		平均値	標準偏差	T値	P値
☆	1.教師に言われなくても自分から進んで勉強する。	強化クラブ学生 N=85 1.95 ± 0.80	2.69	0.008	
	一般学生 N=89 2.27 ± 0.75				
	2.勉強に関する本を読んでいてもすぐに飽きてしまう。	強化クラブ学生 N=85 2.85 ± 0.93	0.14	0.890	
	一般学生 N=89 2.87 ± 0.79				
☆	3.勉強で疑問に思ったことはすぐ調べる。	強化クラブ学生 N=85 2.44 ± 0.94	1.04	0.299	
	一般学生 N=89 2.57 ± 0.80				
☆	4.必要な単位以外でも、関心のある授業はとるようにしている。	強化クラブ学生 N=85 2.22 ± 0.98	2.03	0.044	
	一般学生 N=89 2.53 ± 1.00				
☆	5.大学で勉強をすることで自分の関心を深めている。	強化クラブ学生 N=85 2.72 ± 0.88	0.10	0.921	
	一般学生 N=89 2.73 ± 0.79				
	6.授業に出る気がしない。	強化クラブ学生 N=85 1.81 ± 0.91	0.65	0.515	
	一般学生 N=89 1.90 ± 0.85				
	7.朝寝坊などで授業に遅れることが多い。	強化クラブ学生 N=85 1.53 ± 0.85	3.43	0.001	
	一般学生 N=89 2.05 ± 1.11				
	8.何となく授業をさぼることがある。	強化クラブ学生 N=85 1.68 ± 0.85	2.25	0.026	
	一般学生 N=89 2.01 ± 1.06				
	9.大学からの連絡事項を見落としてしまうことが多い。	強化クラブ学生 N=85 2.12 ± 0.87	0.45	0.650	
	一般学生 N=89 2.18 ± 0.94				
	10.授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある。	強化クラブ学生 N=85 1.69 ± 0.87	0.71	0.479	
	一般学生 N=89 1.79 ± 0.85				
	11.学生生活で打ち込むものがない。	強化クラブ学生 N=85 1.48 ± 0.88	5.76	<.0001	
	一般学生 N=89 2.32 ± 1.02				
	12.大学にいるより、自分ひとりであるほうがいい。	強化クラブ学生 N=85 2.78 ± 0.89	-0.01	0.993	
	一般学生 N=89 2.78 ± 0.91				
☆	13.大学ではいろいろな人と交流がある。	強化クラブ学生 N=85 2.01 ± 0.88	-0.18	0.857	
	一般学生 N=89 1.99 ± 0.81				
☆	14.大学での時間は自分の生活の中で有意義な時間である。	強化クラブ学生 N=85 2.58 ± 0.89	0.68	0.497	
	一般学生 N=89 2.66 ± 0.78				
	15.大学のなかで自分の居場所がないと感じる。	強化クラブ学生 N=85 1.58 ± 0.76	0.56	0.579	
	一般学生 N=89 1.64 ± 0.76				

(注) ☆は逆転項目

ラブ学生の方が、意欲が低い結果であった。

3.2.2 学習への取り組みに関する尺度

強化クラブ学生と一般学生の比較

3.2.2.1 下位尺度 (表7)

合計得点及び下位尺度合計得点の評定平均値、分析結果を表7に示した。合計得点及び全ての下位尺度において、強化クラブ学生と一般学生の評定平均値に統計学的に有意な差は見られなかった。

表7. 強化クラブ学生と一般学生の比較 (学習への取り組みに関する尺度 下位尺度)

	強化クラブ学生			一般学生			T値	P値
	Mean	SD	N	Mean	SD	N		
勤勉的受講態度	23.47	4.37	85	23.24	3.53	89	-0.39	0.70
積極的主張	9.02	3.09	85	8.69	2.80	89	-0.76	0.45
自発的学習	7.68	2.18	85	8.18	2.22	89	1.49	0.14
計画的学習	4.54	3.23	85	4.80	2.05	89	1.04	0.30
合計得点	44.72	72.54	85	44.70	53.25	89	0.15	0.88

3.2.2.2 項目 (表8)

下位尺度の16項目毎に評定平均値の分析結果を表8に示した。下位尺度同様、全ての項目において、強化クラブ学生と一般学生の評定平均値に統計学的に有意な差は見られなかった。

3.3 強化クラブ学生の学年 (1・2年生) による学習意欲の違い

3.3.1 意欲低下領域尺度

1年生と2年生の比較

3.3.1.1 下位尺度 (表9・図2)

合計得点及び下位尺度合計得点の評定平均値、分析結果を表9・図2 (合計得点は除く) に示した。なお、逆転項目は得点処理をして分析した。

合計得点及び全ての下位尺度において、1年生と2年生の評定平均値に統計学的に有意な差は見られなかった。

表8. 強化クラブ学生と一般学生の比較 (学習への取り組みに関する尺度 項目)

			平均値	標準偏差	T値	P値
1.授業に必要な教科書・資料、ノートなどを毎日持参する	強化クラブ学生	N = 85	3.51	± 0.80	0.50	0.621
	一般学生	N = 89	3.56	± 0.69		
2.履修 (登録) した科目は途中で投げ出さない	強化クラブ学生	N = 85	3.49	± 0.83	-0.46	0.644
	一般学生	N = 89	3.44	± 0.77		
3.授業で出された宿題や課題をきちんとする	強化クラブ学生	N = 85	3.34	± 0.77	0.16	0.870
	一般学生	N = 89	3.36	± 0.71		
4.授業に遅刻しないようにする	強化クラブ学生	N = 85	3.53	± 0.77	-0.01	0.990
	一般学生	N = 89	3.53	± 0.68		
5.レポートやテストを提出する前に見直す	強化クラブ学生	N = 85	3.04	± 0.94	0.15	0.878
	一般学生	N = 89	3.06	± 0.84		
6.できるかぎりよい成績を取ろうとする	強化クラブ学生	N = 85	3.35	± 0.68	-1.44	0.150
	一般学生	N = 89	3.17	± 0.73		
7.授業で配布された資料などを整理する	強化クラブ学生	N = 85	3.21	± 0.85	-0.69	0.494
	一般学生	N = 89	3.12	± 0.85		
8.グループワークやディスカッションで自分の意見を問う	強化クラブ学生	N = 85	2.55	± 0.88	-1.25	0.213
	一般学生	N = 89	2.38	± 0.92		
9.グループワークやディスカッションでは、進んでまとも役をする	強化クラブ学生	N = 85	2.12	± 0.88	-1.36	0.176
	一般学生	N = 89	1.93	± 0.92		
10.クラス全員の前で、積極的に質問する	強化クラブ学生	N = 85	2.01	± 0.99	-1.56	0.121
	一般学生	N = 89	1.80	± 0.81		
11.グループワークやディスカッションでは、異なる意見の立場に配慮する	強化クラブ学生	N = 85	2.34	± 0.93	1.70	0.091
	一般学生	N = 89	2.57	± 0.87		
12.授業で興味を持ったことについて主体的に勉強する	強化クラブ学生	N = 85	2.65	± 0.86	1.59	0.114
	一般学生	N = 89	2.85	± 0.86		
13.授業とは関係なく、興味を持ったことについて自主的に勉強する	強化クラブ学生	N = 85	2.54	± 0.87	1.11	0.267
	一般学生	N = 89	2.70	± 0.97		
14.授業でわからなかったことは、自分で調べる	強化クラブ学生	N = 85	2.49	± 0.95	1.00	0.318
	一般学生	N = 89	2.63	± 0.83		
15.計画を立てて勉強する	強化クラブ学生	N = 85	2.26	± 0.94	0.68	0.499
	一般学生	N = 89	2.35	± 0.80		
16.自分の意思で継続的に勉強する	強化クラブ学生	N = 85	2.28	± 1.01	1.19	0.235
	一般学生	N = 89	2.45	± 0.84		

両群とも、「学業意欲低下尺度」が3尺度の中で最も高い評価平均値を示し、学業場面における意欲が最も低く、ついで、「大学意欲低下尺度」、「授業低下尺度」の順に評価平均値が高い結果であった。

表9. 1年生と2年生の比較（意欲低下尺度 下位尺度）

	1年生			2年生			T値	P値
	Mean	SD	N	Mean	SD	N		
授業意欲低下尺度	8.26	2.94	46	9.513	3.63	39	-1.76	0.083
学業意欲低下尺度	13.30	3.26	46	13.77	2.21	39	-0.76	0.452
大学意欲低下尺度	9.65	3.03	46	9.795	2.44	39	-0.24	0.814
合計得点	31.22	6.87	46	33.08	5.74	39	-1.34	0.184

3.3.1.2 項目(表10)

下位尺度の15項目毎に評価平均値の分析結果を表10に示した。なお、逆転項目は得点処理をしないで分析し

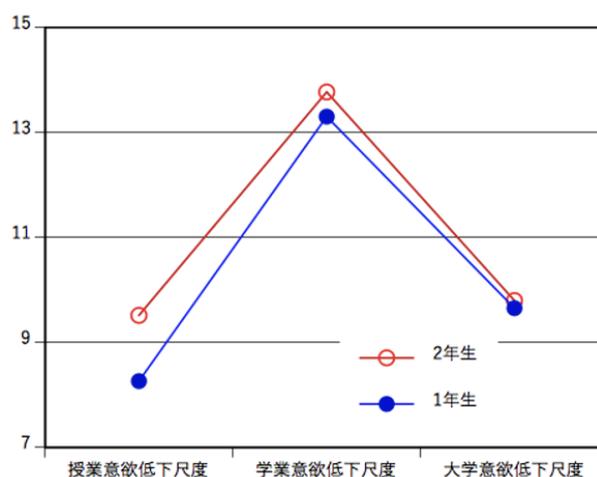


図2. 1年生と2年生の比較（意欲低下尺度 下位尺度）

表10. 1年生と2年生の比較（意欲低下尺度 項目）

		1年生	2年生	平均値	標準偏差	T値	P値
☆	1.教師に言われなくても自分から進んで勉強する。	N=46	N=39	2.09	± 0.78	1.70	0.094
				1.80	± 0.80		
	2.勉強に関する本を読んでいてもすぐに飽きてしまう。	N=46	N=39	2.85	± 0.94	0.01	0.994
				2.85	± 0.93		
☆	3.勉強で疑問に思ったことはすぐ調べる。	N=46	N=39	2.48	± 0.98	0.45	0.651
				2.39	± 0.91		
☆	4.必要な単位以外でも、関心のある授業はとるようにしている。	N=46	N=39	2.22	± 1.03	-0.06	0.951
				2.23	± 0.93		
☆	5.大学で勉強をすることで自分の関心を深めている。	N=46	N=39	2.76	± 0.90	0.49	0.626
				2.67	± 0.87		
	6.授業に出る気がしない。	N=46	N=39	1.65	± 0.80	-1.79	0.078
				2.00	± 1.00		
	7.朝寝坊などで授業に遅れることが多い。	N=46	N=39	1.30	± 0.66	-2.74	0.008
				1.80	± 0.98		
	8.何となく授業をさぼることがある。	N=46	N=39	1.50	± 0.72	-2.20	0.031
				1.90	± 0.94		
	9.大学からの連絡事項を見落とししてしまうことが多い。	N=46	N=39	2.11	± 0.82	-0.10	0.918
				2.13	± 0.92		
	10.授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある。	N=46	N=39	1.70	± 0.89	0.02	0.986
				1.69	± 0.86		
	11.学生生活で打ち込むものがない。	N=46	N=39	1.50	± 0.89	0.20	0.843
				1.46	± 0.88		
	12.大学にいるより、自分ひとりであるほうがいい。	N=46	N=39	2.80	± 0.89	0.31	0.756
				2.74	± 0.91		
☆	13.大学ではいろいろな人と交流がある。	N=46	N=39	2.02	± 0.91	0.11	0.910
				2.00	± 0.86		
☆	14.大学での時間は自分の生活の中で有意義な時間である。	N=46	N=39	2.67	± 0.94	1.10	0.276
				2.46	± 0.82		
	15.大学のなかで自分の居場所がないと感じる。	N=46	N=39	1.61	± 0.77	0.42	0.675
				1.54	± 0.76		

注) ☆は逆転項目

た。統計学的に有意な差が見られたのは、「7. 朝寝坊などで授業に遅れることが多い」(P<0.01)、「8. 何となく授業をさぼることがある」(P<0.05)で、2年生の方が高い評価平均値を示し、この2項目では、1年生に比べ2年生の方が低い結果であった。

3.3.2 学習への取り組みに関する尺度

1年生と2年生の比較

3.3.2.1 下位尺度 (表 11)

合計得点及び下位尺度合計得点の評価平均値、分析結果を表 11 に示した。

統計学的に有意な差が見られたのは、合計得点と下位尺度「自発的学習」「計画的学習」で、2年生より1年生の方が高い評価平均値を示し、2年生に比べ1年生の方が、意欲が低い結果であった。(P<0.01)「勤勉的受講態

度」及び、「積極的主張」については、有意な差は見られなかった。

表11. 1年生と2年生の比較 (学習への取り組みに関する尺度 下位尺度)

	1年生			2年生			T値	P値
	Mean	SD	N	Mean	SD	N		
勤勉的受講態度	24.28	3.96	46	22.51	4.68	39	1.89	0.063
積極的主張	9.17	3.34	46	8.85	2.79	39	0.49	0.629
自発的学習	8.37	2.21	46	6.87	1.87	39	3.35	0.001
計画的学習	5.02	1.95	46	3.97	1.42	39	2.78	0.007
合計得点	46.85	9.14	46	42.21	7.03	39	2.59	0.011

3.3.2.2 項目 (表 12)

下位尺度の 16 項目毎に評価平均値の分析結果を表 12 に示した。統計学的に有意な差が見られたのは、「2. 履修 (登録) した科目は途中で投げ出さない」(P<0.05)、「3. 授業で出された宿題や課題をきちんとする」(P<0.05)、

表12. 1年生と2年生の比較 (学習への取り組みに関する尺度 項目)

			平均値	標準偏差	T値	P値
1. 授業に必要な教科書・資料、ノートなどを毎日持参する	1年生	N=46	3.57	± 0.83	0.74	0.459
	2年生	N=39	3.44	± 0.75		
2. 履修 (登録) した科目は途中で投げ出さない	1年生	N=46	3.70	± 0.59	2.52	0.014
	2年生	N=39	3.26	± 0.99		
3. 授業で出された宿題や課題をきちんとする	1年生	N=46	3.52	± 0.72	2.43	0.017
	2年生	N=39	3.13	± 0.77		
4. 授業に遅刻しないようにする	1年生	N=46	3.70	± 0.63	2.23	0.029
	2年生	N=39	3.33	± 0.87		
5. レポートやテストを提出する前に見直す	1年生	N=46	3.09	± 0.94	0.55	0.587
	2年生	N=39	2.97	± 0.96		
6. できるかぎりよい成績を取ろうとする	1年生	N=46	3.44	± 0.83	0.99	0.325
	2年生	N=39	3.26	± 0.82		
7. 後業で配布された資料などを整理する	1年生	N=46	3.28	± 0.83	0.84	0.405
	2年生	N=39	3.13	± 0.86		
8. グループワークやディスカッションで自分の意見を問う	1年生	N=46	2.61	± 0.91	0.63	0.529
	2年生	N=39	2.49	± 0.85		
9. グループワークやディスカッションでは、進んでまとも役をする	1年生	N=46	2.11	± 0.95	-0.10	0.920
	2年生	N=39	2.13	± 0.80		
10. クラス全員の前で、積極的に質問する	1年生	N=46	2.09	± 1.03	0.76	0.452
	2年生	N=39	1.92	± 0.96		
11. グループワークやディスカッションでは、異なる意見の立場に配慮する	1年生	N=46	2.37	± 1.00	0.30	0.763
	2年生	N=39	2.31	± 0.86		
12. 授業で興味を持ったことについて主体的に勉強する	1年生	N=46	2.89	± 0.92	2.99	0.004
	2年生	N=39	2.36	± 0.67		
13. 授業とは関係なく、興味を持ったことについて自主的に勉強する	1年生	N=46	2.80	± 0.78	3.20	0.002
	2年生	N=39	2.23	± 0.87		
14. 授業でわからなかったことは、自分で調べる	1年生	N=46	2.67	± 0.99	1.93	0.057
	2年生	N=39	2.28	± 0.86		
15. 計画を立てて勉強する	1年生	N=46	2.50	± 0.98	2.66	0.009
	2年生	N=39	1.97	± 0.81		
16. 自分の意思で継続的に勉強する	1年生	N=46	2.52	± 1.09	2.45	0.016
	2年生	N=39	2.00	± 0.83		

「4. 授業に遅刻しないようにする」(P<0.05)、「12. 授業に興味を持ったことについて主体的に勉強する」(P<0.01)、「13. 授業とは関係なく、興味を持ったことについて自主的に勉強する」(P<0.01)、「15. 計画を立てて勉強する」(P<0.01)、「16. 自分の意思で継続的に勉強する」(P<0.05)の7項目で、2年生より1年生の方が高い評定平均値を示し、1年生に比べ2年生の方が有意に低い結果であった。残りの9項目については、統計学的に有意な差は見られなかった。

4. 考察

②学習への取り組みに関する尺度では、強化クラブの所属の有無により、統計学的に有意な差は見られなかったが、①意欲低下領域尺度では、下位尺度、下位尺度の項目において、統計学的に有意な差が見られた。下位尺度では、一般学生の方が、強化クラブ学生より意欲低下を示した為、仮説1.1は棄却された結果となった。

また、①意欲低下領域尺度の下位尺度項目の結果から、強化クラブ学生は、一般学生より「遅刻しない」「さぼらない」等のルールを遵守する傾向にあるが、自ら学び勉強する姿勢は一般学生に比べ低いことが明らかとなった。これらの結果に加え、強化クラブ学生は、進学理由・目的がクラブでの活動を一番の理由に挙げていることから、仮説1.2は、支持された結果となった。

全ての学習意欲に関する尺度・項目において、一般学生よりも強化クラブ学生の方が、意欲が低い結果ではなく、それぞれの意欲の特徴を読み取る事ができる結果であった。これらの特徴が、本学科科目担当教員が指摘する強化クラブの学習意欲の低下の一因である可能性が考えられるが、断定はできない。この点については追加の調査が必要であると考えられる。

Walters (1961)らの調査に見られる、「2年生の学習意欲低下」が本調査でもみられた。特に「遅れない」「さぼらない」「単位を途中であきらめない」等の、勤勉的学習態度尺度項目が、1年生に比べ2年生が低い結果を示した。同様に、自ら求めて勉強する等の自発的学習尺度、計画を立て、継続して勉強する等の計画的学習尺度も1年生に比べ2年生が低い結果を示した。よって、仮説1.3は、支持された結果となった。

5. まとめ

本研究は、経営学部経営学科を対象として、「進学理由」と「学習意欲」を調査し、強化クラブ学生が示す「学習意欲の状態」を明らかにする為、以下の3つの仮

説を下に検証を行った。

その結果、以下の知見が得られた。

1. 一般学生と強化クラブ学生の学習意欲には、違いがあるが、全ての学習意欲が一般学生に比べ強化クラブ学生が低いとは言えない。
2. 強化クラブ学生は、「遅刻しない」「さぼらない」等のルールを順守する傾向にあるが、大学への進学理由・目的が一般学生とは違う為、授業に対する興味・関心、自ら学び勉強する姿勢は一般学生に比べ低いことが明らかとなった。
3. 先行研究に見られる様に、学年によって学習意欲に違いがあり、1年生よりも2年生の学習意欲が低い。

引用・参考文献

- 1) Benesse 教育研究開発センター(2005)平成16・17年度文部科学省委託調査「義務教育に関する意識調査」報告書
<https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=3320> (最終アクセス2024年1月23日)
- 2) 原田克己(1996)「大学生の意欲低下に関する研究-スチューデントアパシー傾向との関連から-」.平成8年度発達臨床学専攻修士学位論文概要.
- 3) 西田敬志(2012)「体育系大学生における無気力の分類と心理的特徴」平成24年度順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科修士論文.
- 4) 岡田有司・鳥居朋子・宮浦崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)大学生における学習スタイルの違いと学習成果.立命館大学教育開発推進機構.立命館高等教育研究11:167-182.
- 5) 下山晴彦(1996).スチューデント・アパシー研究の展望.教育心理学研究43(3):350-363.
- 6) 鉄島清毅.(1993).大学生のアパシー傾向に関する研究-関連する諸要因の検討-.教育心理学研究41:200-208.
- 7) Walters, P. A., Jr. (1961). Student Apathy. In G. B. Blaine, Jr. & C. C. McArthur, (Eds.), Emotional problems of the student New York: Appleton Century Crofts(106-120). 学生のアパシー(1975). 笠原嘉・岡本重慶訳、学生の情緒問題. 石井完一郎・岨中達・藤井虎監訳. 東京. 文光堂.